

教科（ 理 科 ） 科目（ 探究地学 ） 学年（ 3 ） 単位数（ 2 ）

類型（ 文 ）

履修規定（ 選択 ）

学習の目標			使用する主な教材				
1 地球と宇宙に関して、地学的な原理・法則を理解し活用する能力を身に付ける。 2 時間的・空間的スケールを正しく把握し、総合的に考察する能力を養う。 3 人間の生存の場としての地球環境の保全について関心を高め、自然と人間との関わりについて、理解と認識を深める。			・教科書『高等学校 地学基礎』第一学習社 ・『地学学習帳』 愛媛県高等学校教育研究会地学部門 ・資料プリント（補足資料） ・問題プリント				
期	月	学 習 内 容	学 習 の 具 体 的 内 容 と ね ら い	主な評価の観点			
				①	②	③	④
一 学 期	4	経線の長さの比較 地震波と地球の内部構造	・経線の長さを比較することで、どうして地球の形が楕円体であるとされたのか理解する。 ・地震波によって地球の内部構造を解明してきたことについて理解し、知識を身に付ける。	◎			○
	5	大陸移動 海洋底拡大説 太平洋プレートの移動	・プレートテクトニクスについて学習し、地殻の変動について理解する。	◎			○
	6	震央と震源の深さの決定 兵庫県南部地震の震度分布	・大森公式による震源までの距離の算出方法を学習し、震央と震源の深さを決定する方法や、震度分布から地震発生時の様子を考える方法を身に付ける。	◎ ◎		○ ○	
		P波の初動分布と断層運動 日本付近の震源分布	・P波の初動分布と断層運動について理解し、知識を身に付ける。	◎			○
	7	火成岩の分類	・火成岩の観察（色指数）と分類を理解し、知識を身につける。		○		◎
		結晶の生成過程の観察	・鉱物の観察について理解し、知識を身に付ける。	◎		○	
	二 学 期	8	日射量の測定	・日射量の測定について理解し、知識を身に付ける。			◎
9		雲の発生モデル実験と過冷却水	・気象現象についてそれぞれの現象が起こる仕組みを理解し、知識を身に付ける。		◎		○
10		陸海風・天気の変化 海水の塩分濃度と緯度別蒸発量の関係	・海水の塩分濃度と蒸発量の関係についてグラフを作成し、考察する。		◎		○
11		太陽表面の観察	・太陽黒点の観察の結果から太陽表面の様子や自転の様子を考察する。	○			◎
12		HR図の作成 ハッブルの法則 問題演習	・HR図、ハッブルの法則について理解し、知識を身に付ける。 ・問題演習を通して、知識を活用して地学的な事象について考える力を身に付ける。		◎	◎	○ ○
三 学 期	1	総合探究	・基本事項の理解を確認し、学習内容の定着と応用力を養う。		○		◎
	2		・学習内容の定着と応用力を養う。		◎		○
	3						
評価の方法		①「関心・意欲・態度」：科学について関心を持ち、意欲的に探究しようとする。 ②「思考・判断・表現」：科学的な現象について考察し、導き出した考えを表現している。 ③「観察・実験の技能」：観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理している。 ④「知識・理解」：科学的な現象について理解し、知識を身に付けている。 以上4つの観点を考慮しながら、成績は定期考査の得点に平常点（学習態度、課題、小テスト、ノート等）を加味して100点満点で算出する。学年末の成績は、各学期の成績をもとに算出する。					
備考							